

H23年3月15日 2月定例会 産業経済委員会

◆帆苺謙治委員 私からは、先般の連合委員会でたどりましたが、確認の意味で、部長なり、担当課長に説明を受けたいと思っております。

知事も、新潟県は全国トップクラスの食料の生産県であり、供給基地だという認識はお持ちでございまして、私も安心しました。そして、これからの農地部の大きな課題としては、1兆5,000億円に及ぶ基幹的農業水利施設の更新があると。三富委員が今、言われたように、予算も年々削られてきていると。そういった中であって、ほ場整備も、工期が7年から17年くらいになっていると。また、新規のものも整備しなければならず、なおさら長引いているという状況にあります。しかし、新たに1兆5,000億円分の基幹的農業水利施設の維持管理といいますか、ストックマネジメント事業を展開していかなければならない。これがこれからの大きな課題だということでもあります。

そこで、先日の連合委員会での部長の答弁によると、今後も老朽化した施設が増えることへの対策として、農業水利施設全体の長寿命化計画を策定する事業の予算案を今定例会に提案しているということではありますが、この事業内容について、少し教えていただけますか。

◎宮里圭一農地建設課長 農業水利施設長寿命化計画策定の事業内容についてでございますが、農業水利施設の維持更新に必要な費用を推計いたしまして、専門家で構成する委員会の御意見をお聞きしながら、計画的な維持更新を進めるための計画を策定するものでございます。具体的には、農業水利施設の劣化状況を確認いたしまして、劣化の進行状況ですとか、実態に即した耐用年数の検討を行うとともに、施設の重要度や対策の緊急度を考慮しまして、施設の更新時期が集中しないよう、施設全体の長寿命化計画の策定を予定しております。このことによりまして、施設全体のライフサイクルコストの縮減を目指すものでございます。

◆帆苺謙治委員 そうということなのでしょうね。部長の答弁によると、この計画の策定期間は2年から3年くらいと言われましたよね。では、具体的に、いつごろまでに長寿命化対策の骨子をまとめていかれるのか。また、来年度に予算を盛ったけれども、すぐ完成するのではないわけですよ。2年、3年かかると。ですので、その後の予算計上についても、どのような方針を持って臨んでいくのか。あるいは、施設の長寿命化を図るというような分野の専門家という、やはり土地改良区だと思うのです。この辺をどうお考えになっているのか、併せてお願いしたいと思います。

◎宮里圭一農地建設課長 どれくらいの事業期間を考えているのか、予算はどのように考えているかということですが、来年度は単年度で800万円の計画策定事業費を積

ませていただきました。この中で、すでに標準耐用年数が近づいているような施設を抽出して、チェック、検討して、それに基づいて、ある程度、概略の部分を検討いたしまして、2年め、3年めにどういったものが必要かを併せて、来年度の中で考えていきたいと思えます。

また、専門家でございますが、委員御指摘のとおり、農業水利施設に詳しい農業土木関係の専門家を中心に、また機械設備やコンクリート設備もございますので、多方面からの検討をするための委員のかたをお願いしたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 計画策定というのは、3年後くらいになるのでしょうか。ただ、すべて策定したとおりにいくということはないでしょう。その都度、2年後、3年後にさらに変更しなければならないことが出てくるはずなのです。ですから、概略はつかんでおく必要があるし、なるべくであれば、そのとおりにいけばいいのだけれども、多少のずれはあると思うので、早めに具体化していくということが必要だと思います。2年後か3年後かではなくて、具体的にいつを目途に考えておられるのかをお伺いしたい。

◎宮里圭一農地建設課長 委員御指摘のとおり、やはり概略は概略である程度まとめる必要があると思いますし、短期、中期、長期と考えていった中で、短期的にやるものは、実際に対策工事を進めながらやっていく必要があると考えています。そういった意味で、部長が答弁しましたように、二、三年後をめどに、短期的にはこれくらい、中期的にはこれくらい、長期的にはこれくらいといった区分も考えながら、工事のほうも滞らないように、進めていきたいと考えてございます。

◆帆苺謙治委員 これ以上は言いませんけれども、例えば来年度予算、あるいは再来年度予算で、ある程度まとめて提案して、実施していくと。こういった方法を執るように要望します。

今ほど、三富委員も予算の面から意見を申し上げました。ほ場整備も大事ですし、これからは農業水利施設の維持・更新も大事だと。私も知事に対して言いましたけれども、ただ1兆5,000億円をすべてかけるのではなくて、そういうことも踏まえて、今後、必要な予算措置は何か考えるというような知事の答弁もございました。やはり農地部としても、ほ場整備もあるわけでしょう。それを削ることなく進めていくには、それ相応の努力が必要だと思うわけでありまして。最後に、必要な予算の確保に努めていただきたいという願望を持っておりますし、新潟県農業を守るためにも、農地部長が農地部全体のトップとして、所要の予算の確保に向けてどうお考えか、質問させていただきます。

◎米田博次農地部長 予算の確保についてであります。本県は我が国の食料基地でありますので、安全・安心な食料を安定的に供給していくためには、ただいま委員から御指摘が

ありましたとおり、農業水利施設の維持保全を図りながら、一方で経営効率の向上や経営体の育成につながる整備を進めていかないといけないということだろうと思います。魅力ある農業と農村の実現に資する整備が必要でありますので、所要の予算の確保に努めてまいります。